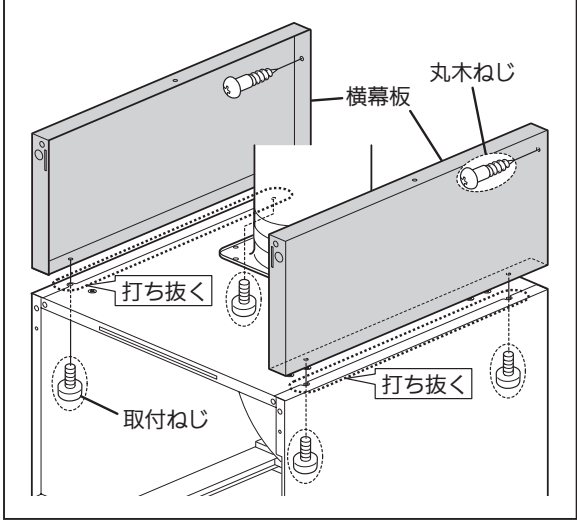


取り付けかた（つづき）

8. 横幕板・前ふたの取り付け

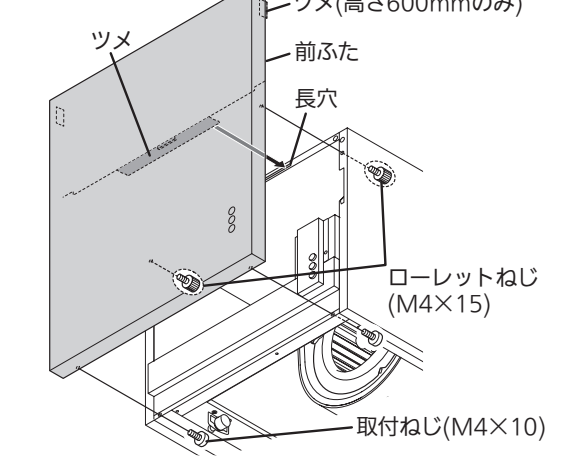
- 横幕板（別売品）を使用する場合（図 8－1）
- 1 ハーフカット部を打ち抜きます。本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。
- 2 横幕板を取り付けます。
- 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。（打ち抜いた穴を使用します。）
 - 横幕板に付属の丸木ねじ各 1 本で横幕板を壁面に固定します。

図 8－1



- 3 前ふたを取り付けます。（図 8－2）
- 前ふた裏面のツメを本体の長穴に差し込み、前ふたを手で押さえながら上側 2ヶ所を付属品のローレットねじ 2 本で固定します。

図 8－2



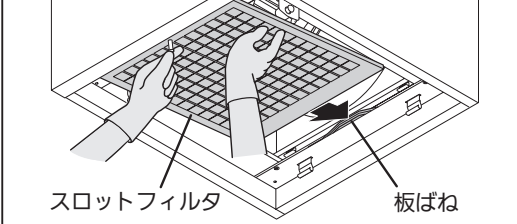
前ふた高さ 600mm の場合のみ
前ふた上部両端にあるツメを横幕板の角穴に差し込みながら取り付けてください。取り付け後、両側とも確実に差し込まれたことを確認してください。

- 下側 2ヶ所を付属品の取付ねじ（M4×10）2本でそれぞれ本体内側から固定します。

9. 試運転の準備

- 1 スロットフィルタを取り付けます。（図 9－1）
- スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

図 9－1



10. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

天井への取り付けかた（別売品のセンターキットが必要です）

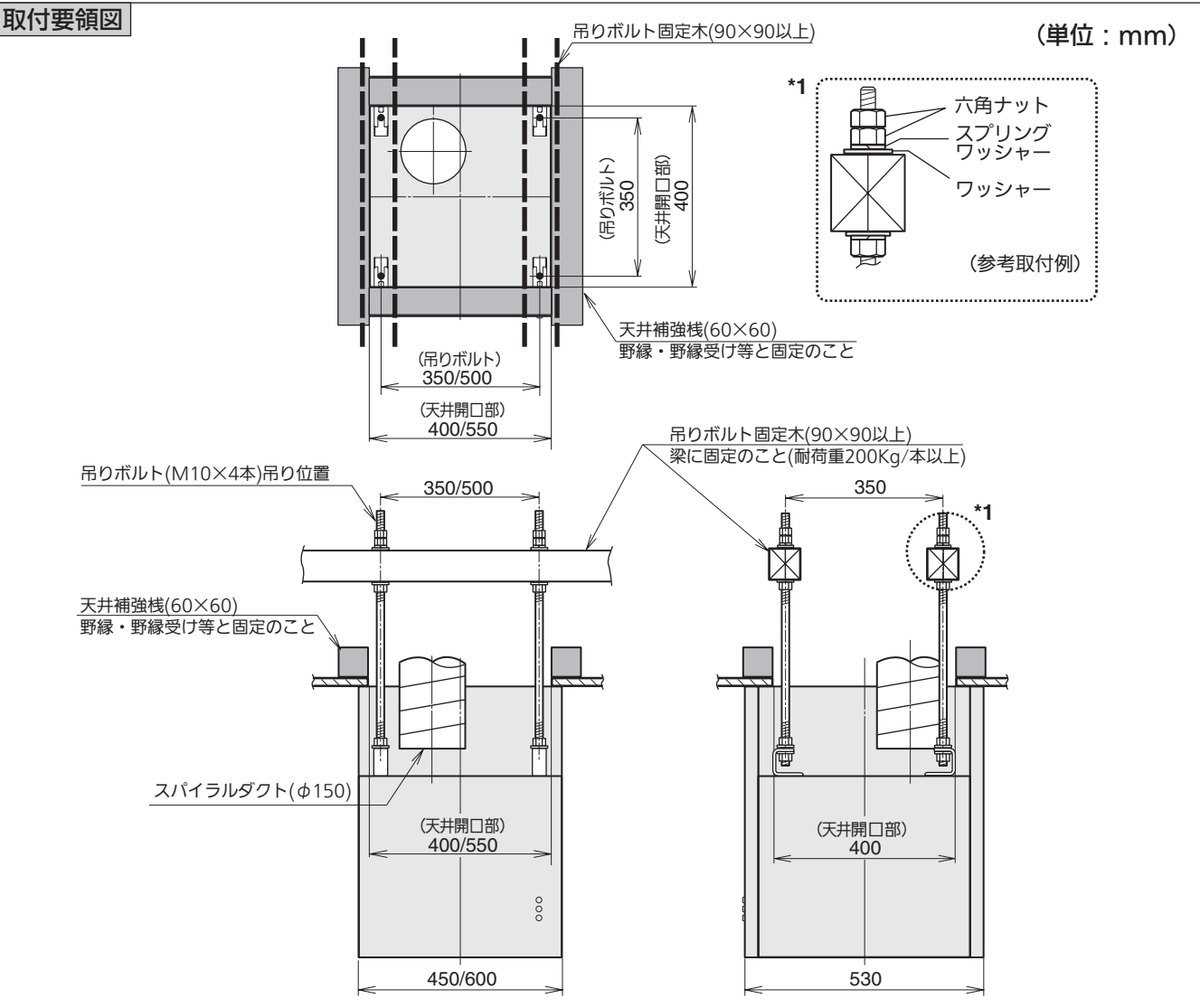
「安全上のご注意」、「取り付け上のお願ひ」は表面をご覧ください。

取り付け前の調査と準備

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用し可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります

⚠ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が 40℃以上になる場所には取り付けないこと
火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります
取付材が弱いと振動音がすることがあります



■ 取付箇所の強度確認

製品を支える強さが必要です。

レンジフードの本体は M10 の吊りボルト 4 本を使用し、天井内の梁などへ取り付けます。

吊りボルトは耐荷重 200kg/ 本以上となるように取り付けてください。

製品質量	
450 間口・高さ 600	18.0 kg
600 間口・高さ 600	20.0 kg

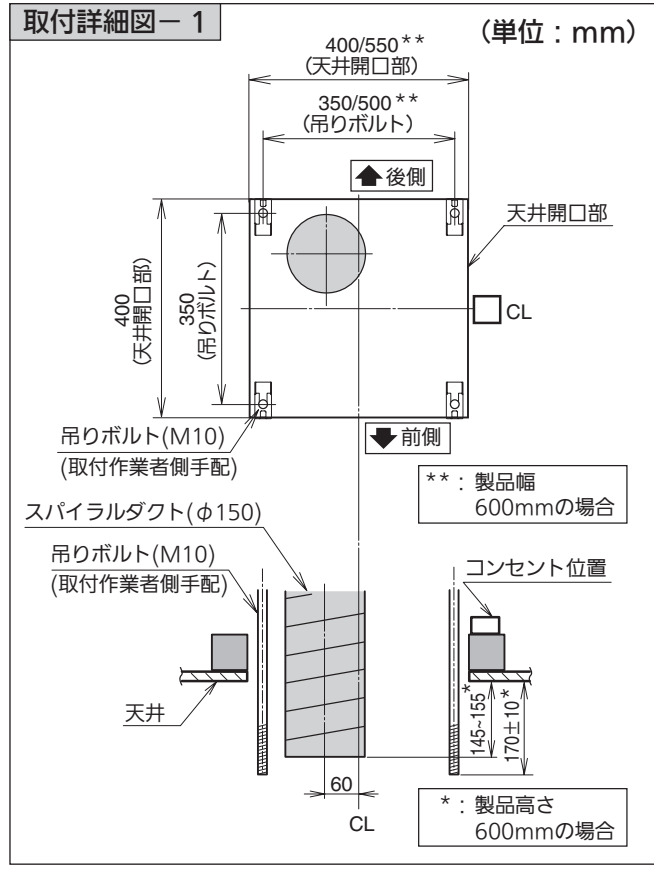
- 本書では製品高さ 600mm の場合を例に説明しています。
- 【製品高さ 400mm の場合】
フード取付開口部横に点検口を設け、ダクト接続および吊りボルトによる取り付けを確実におこなってください。

- 1 天井面への穴あけ
取付詳細図－1 および右表を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ天井面へのダクト穴の開口を依頼してください。
また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンセントを設置してください。

（単位：mm）

製品幅	天井開口寸法	前後	左右
450	400	400	400
600	400	400	550

- 2 排気ダクトの取り出し
（取付詳細図－1）
φ 150 のスバイラルダクトを、右図の位置に取り出してください。

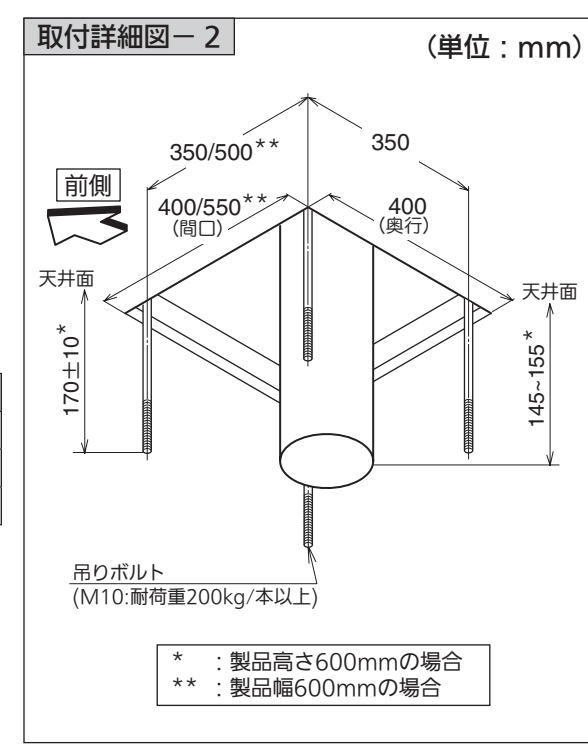


- 3 吊りボルトの取り付け
（取付詳細図－2）
M10 の吊りボルトを 4 本、天井内の梁などの適当な部分に固定します。固定ピッチは下表の通りです。
※ 吊りボルトは、M10 を用いてください。

（単位：mm）

製品幅	固定ピッチ	前後	左右
450	350	350	350
600	350	500	500

- お願ひ
M10 吊りボルト（4 本）、M10 ワッシャー（4 枚）およびナット（4 個）は取付作業側に手配してください。
- * : 製品高さ 600mm の場合
** : 製品幅 600mm の場合



- 4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※ 火災予防条例で、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

- 5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

- お願ひ
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤動作することがあります。

取り付けかた

1. 付属品の確認

⚠ 注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 付属品を確認します。
梱包箱から付属品および別売品を取り出し、表面の付属品一覧により不足がないか確認します。
- お願ひ
・取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

2. 取付準備

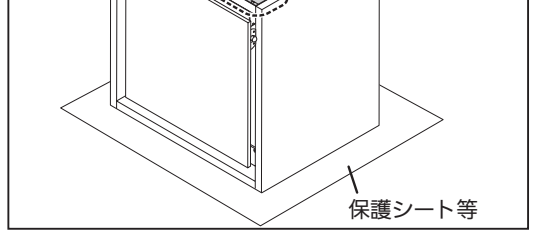
⚠ 警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
火災などの原因になります
詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠ 注意

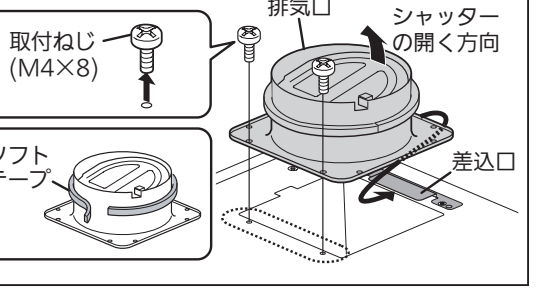
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になる場所には取り付けないこと
火災・故障の原因になります

- お願ひ
・床面を傷つけないよう、保護シート等を敷いた上作業をおこなってください。（図 2－1）
・製品取り扱いの際は、右図に示す部分を絶対に持たないでください。ゆがみ、変形の原因になります。（図 2－1）



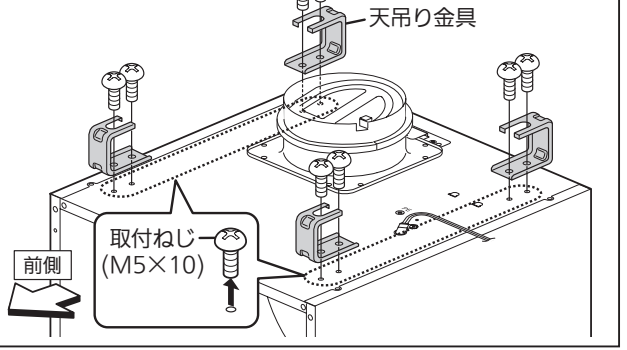
- ※ 「1. 付属品の確認」の項で取り出した排気口を用意してください。
- 1 排気口に付属品のソフトテープを貼り付け、本体に取り付けます。（図 2－2）
本体についているねじ 2 本を取りはした後、付属品の排気口を取り付けます。
取付方向は右図を参照してください。

図 2－2



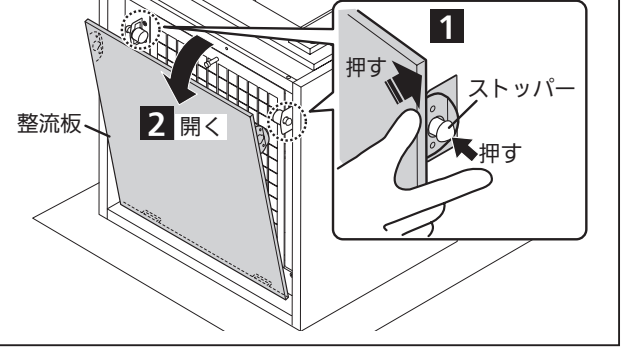
- 2 天吊り金具を取り付けます。（図 2－3）
別売品の天吊り金具 4 個を図のように別売品に付属の取付ねじ（M5×10）で天板へ取り付けます。

図 2－3



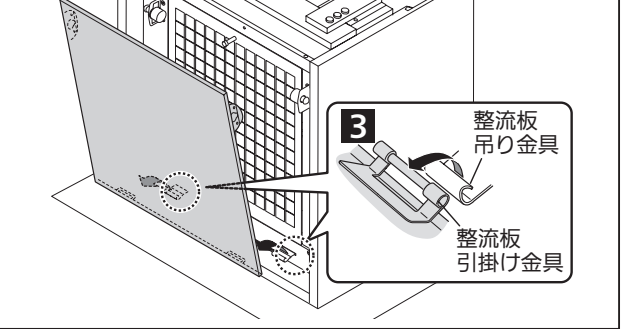
- 3 整流板をはずします。
1) 整流板の前側を固定している左右のストッパーを押し込みながら前側をゆっくり開き、ロックをはずします。（図 2－4）

図 2－4



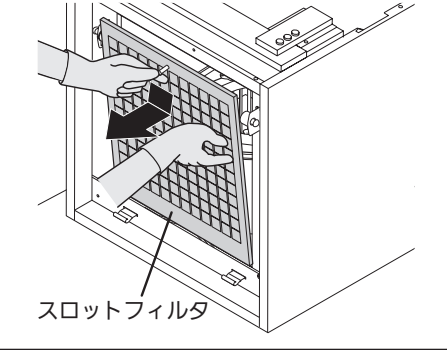
- 2) 整流板をさらに開き、整流板吊り金具から取りはずします。（図 2－5）

図 2－5



- 4 スロットフィルタをはずします。（図 2－6）
スロットフィルタの手で支えながら少し押し込み、手前に引き出します。

図 2－6



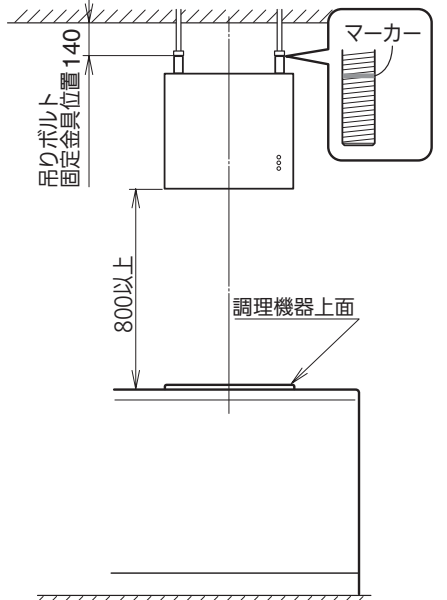
3. 本体の取り付け

⚠ 注意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
落下により、けがをするおそれがあります
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります

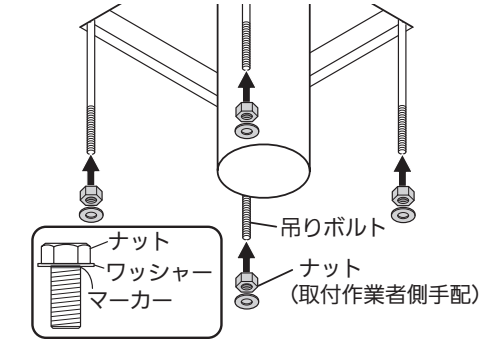
- 1 レンジフードの固定位置を決めます。（図 3－1）
吊りボルトにマジックペンなどで、天井から 140mm の位置にマーカをつけます。

図 3－1



- 2 ナットとワッシャーを吊りボルトにねじ込みます。（図 3－2）
M10 のナットとワッシャー（取付作業側の手配）を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。

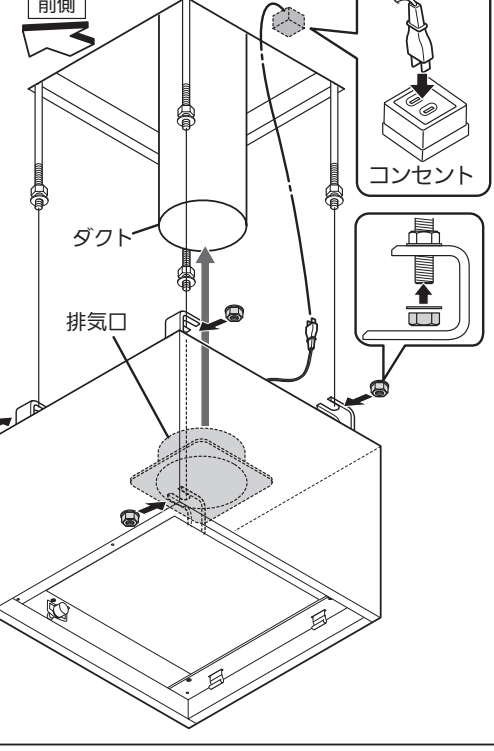
図 3－2



- お願ひ
取付完了後、調理機器上面から本体下面まで 800mm にならない場合は調節してください。

- 3 本体を吊りボルトに固定します。（図 3－3）
1) 本体を持ち上げて 4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を差し込みながら吊りボルト下側から M10 のワッシャーとナット（取付作業側の手配）でしっかりと締め付けます。

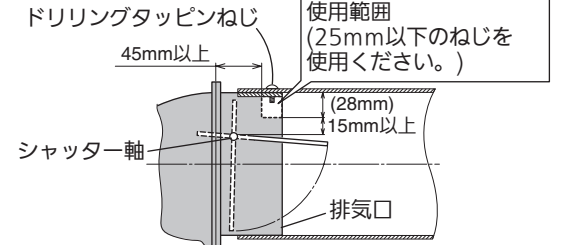
図 3－3



4. ダクトと排気用部品の接続

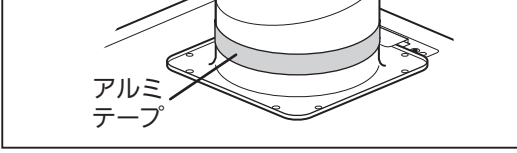
- お願ひ
ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたりないように図を参照してドリリングタッピングねじ使用範囲以内に固定してください。（図 4－1）

図 4－1



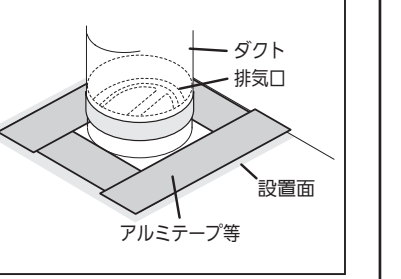
- 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 4－2）
ダクトの接合部へ風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこなってください。

図 4－2



- 排気口設置面の漏風確認のお願ひ（図 4－3）
排気口とダクトを接続する際、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図 4－3



5. 電気配線

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください

100V

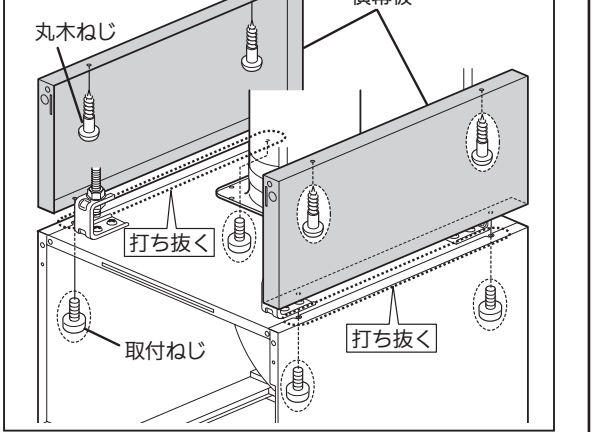
- 1 アース（D 種接地工事）を取ります。（「3. 本体の取り付け」手順 3 の 2）でおこなってください。）
※アース線は取り付け作業側にて手配します。
- 2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。（「3. 本体の取り付け」手順 3 の 3）でおこなってください。）
- お願ひ
・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
・コンセントは電源コードの長さを考慮し、設置してください。

6. 横幕板・後ふた・前ふたの取り付け

- 製品高さ 400mm の場合、横幕板の取り付けはできません。

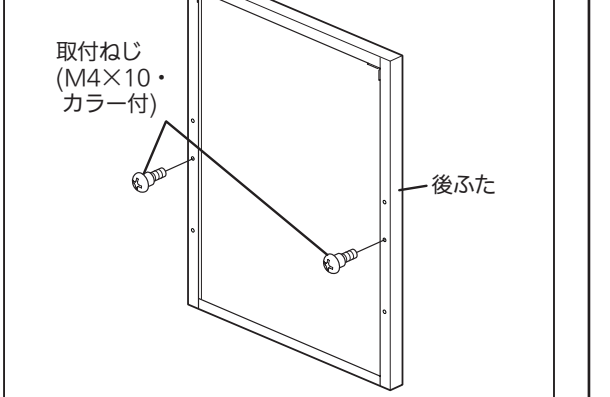
- 1 ハーフカット部を打ち抜きます。（図 6－1）
本体天面の四隅にあるハーフカット部をプラスドライバーの先端等で上から打ち抜きます。

図 6－1



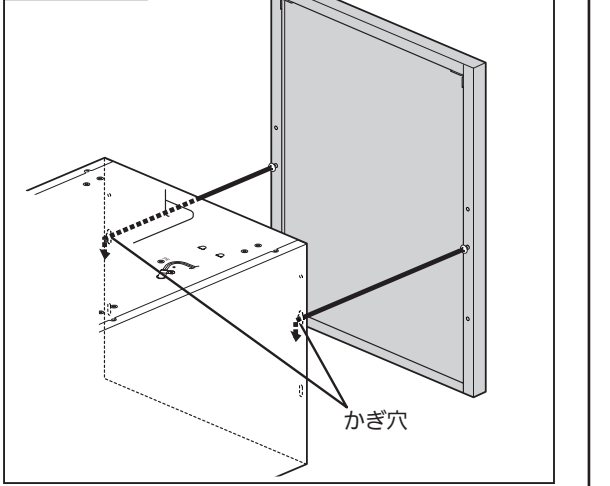
- 2 横幕板を取り付けます。（図 6－1）
1) 本体天面に横幕板 2 枚を図のように置き、横幕板に付属の取付ねじ（M4×10・カラーなし）各 2 本で横幕板を本体内側から固定します。（打ち抜いた穴を使用します。）

図 6－2



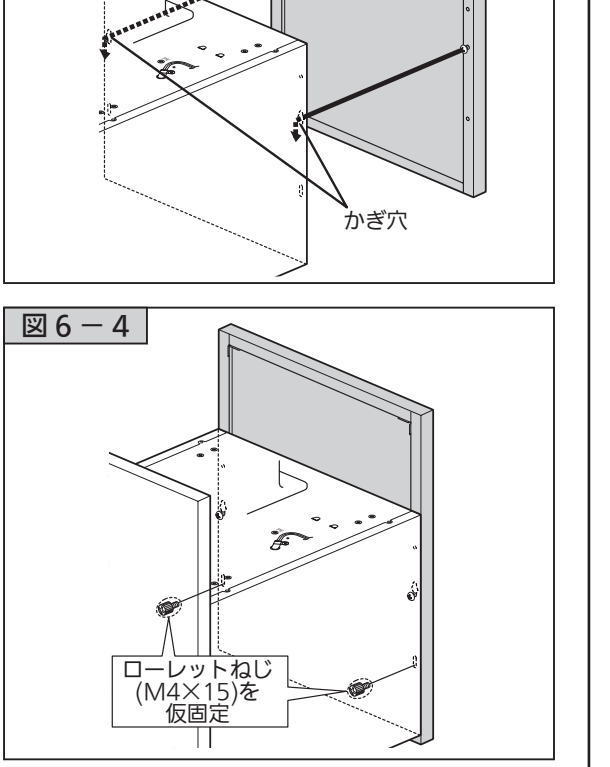
- 2) 横幕板に付属の丸木ねじ各 2 本で横幕板を天井に固定します。
- 3 後ふたに取り付ねじを取り付けます。（図 6－2）
後ふた裏面の 2ヶ所の穴に、取付ねじ（M4×10・カラー付）各 1 本をねじ込みます。（後ふたの間に 2mm 程度のすきまが開きます。）

図 6－3



- 4 後ふたを本体に引っ掛けます。（図 6－3）
前手順で後ふたに取り付けたねじを、本体背面にあるかぎ穴に引っ掛けます。

図 6－4

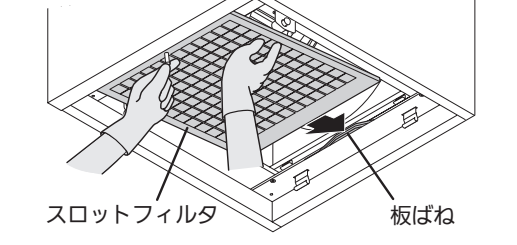


- ※ 後工程で後ふたの位置調整を行いますので、ローレットねじはきつめ締めすぎないでください。

7. 試運転の準備

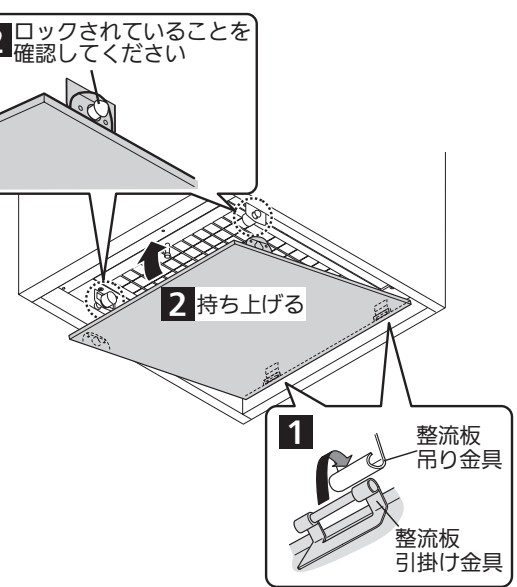
- 1 スロットフィルタを取り付けます。（図 9－1）
スロットフィルタを手で支えて後側を本体の板ばねに押し当てながら、前側を本体の溝部分に差し込みます。

図 9－1



- 2 整流板を取り付けます。（図 9－2）
1) 整流板引掛け金具をフードの整流板吊り金具に引っ掛けます。

図 9－2



- 2) 前側をゆっくり持ち上げて左右のストッパーがロックするまで押し上げます。
- 3) 整流板を軽く上下に動かしてみても確実に取り付けられたことを確認します。

- お願ひ
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

8. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 最終設置した状態で試運転してください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

9. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

〔製造元〕 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1－9
TEL 042(768)3754（営業部）